

つどーむでチャレンジパラスポーツフェス

秋、札幌で障がい者スポーツイベント盛ん

障がい者スポーツの普及に力を入れている札幌市で、この秋も市内各所で様々なイベントが開かれました。

11月15日(土)に東区のつどーむで開かれたのは「チャレンジパラスポーツフェスタinつどーむ」。今年が3回目の開催で、つどーむのアリーナ内では、ボッチャや車いすバスケットボール、車いすカーリング、ブラインドマラソンなどパラリンピックでおなじみの競技のほか、北欧生まれでパラ競技として採用を目指しているモルックなど10種類のブースが設けられました。



パラスポーツフェスタの車いすカーリングブース

障がいがある人もない人も、楽しく身体を動かし、パラスポーツに触れてみようという啓発イベントで、午前から夕方までの開催時間中に家族連れなど約1,300人が訪れ、各ブースで実際に競技を体験しました。

パラ・パワーリフティングでは、ともに札幌市在住で愛知・名古屋2026アジアパラリンピック出場を目指している戸田雄也さんと、2028年ロサンゼルスパラリンピック出場を目指している柳原愛さんが、重いバーベルを見事に上げる試技を披露し、観客から大きな拍手を浴びていました。

アリーナ2階のランニングコースで行われたブラインドマラソンでは、視覚障がいのランナーと伴走者の会「伴走フレンドリー」に所属する伴走ランナーが参加するなど、イベントは多くのボランティアが運営を支えました。入り口で入場者数をカウントする役を務めた札幌市の佐野直美さんは、自閉スペクトラム症に関



世界を目指すアスリートが試技を披露したパラ・パワーリフティング

心があるのでボランティアに応募。「こうした機会では障がい者スポーツがもっと盛んになってくれれば」と話していました。

札幌駅前の地下歩行空間北3条交差点広場では11月21日から23日まで、日本で初開催中の東京2025デフリンピック(11月15日から12日間開催)のPRイベントが開かれました。

「きこえない、きこえにくい人たち」のための、4年に1度の世界大会で、第1回がパリで開催されてから100周年の記念大会です。道内からはバドミントンの森本悠生さん、卓球の木村亜美さ



デフリンピック男子バドミントンダブルス決勝に進出した森本悠生選手に声援を送る地下歩行空間のパブリックビューイング

ん、ビーチバレーボールの境出ゆきえさん、水泳の川真田結菜さん、マラソンの北川朋恵さん、バスケットボールの手塚清貴さん、ボウリングの桜庭まどかさんの7人が出場しました。

PRイベントでは出場道内選手の等身大の写真と競技の説明が書かれたパネル展示とパブリックビューイングが行われ、地下歩行空間を通る市民が立ち寄り、男子ダブルスで銀メダルを獲得した森本選手の準決勝、決勝では力のこもった声援が送られました。

12月13日(土)には西区体育館・温水プールで障がいのある人専用の開放イベント「SAPPOROスポーツバリアフリー」が初開催。

子どもから大人まで障がいの状態に応じてスポーツを体験できるよう、水泳のほか、ミニサッカー、卓球、フライングディスク、ボッチャなど多くの体験種目を用意しているほか、理学療法士やパラスポーツ指導者による相談・サポートも用意されています。

障がい者スポーツの振興は2014年に厚生労働省から文部科学省に移管され、翌15年に発足した外郭団体のスポーツ庁に障がい者スポーツ振興室が置かれました。また、2021年には「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されており、これらを主な契機の一つとして、札幌市でもスポーツ局を中心に積極的に障がい者スポーツの振興に取り組んできています。

市スポーツ局の銭谷昌平・障がい者スポーツ担当係長は「2030年札幌オリンピック、パラリンピック誘致は実現しませんが、札幌市では引き続き障がい者スポーツの振興を通じて、共生社会の実現を目指していきます」と話しています。